

## ■環境整備事業

【参考：第5期計画書より抜粋】

### 上山里丸草庵茶室跡整備工事

#### (2) 整備の内容と方法について

##### ①上山里丸草庵茶室跡

###### ■発掘調査の成果

平成9年度に発見された山里丸草庵茶室跡は、桃山時代の茶室跡として全国的にも貴重であり、飛石や井戸・垣根・玉石敷なども発見されている。このことから、大坂城や伏見城にも存在した当時の山里丸の様子を唯一再現できる遺構として重要である。また、博多の豪商神屋宗湛が記した「宗湛日記」の、天正20(1592)年11月の「山里御座敷開き」について記載された「草庵茶室」そのものであることが推定されている。発掘調査成果と歴史史料の両面から豊臣秀吉の名護屋城での暮らしぶりを考察することが出来る遺構としても価値が高い。

###### ■整備工事の概要

発掘調査の成果からは、大陸進出の基地としてだけではなく、桃山文化の発信・交流の場となった名護屋城の文化的側面を象徴する新たな見学スポットとして期待できる。公開・活用を図るため、草庵茶室跡・南西斜面を含む上山里丸の数寄空間の整備を行う。

###### ■整備方針の検討

名護屋城跡・陣跡における遺構整備の基本コンセプトは、「現状維持を優先した整備」であり、「原則として建物立体復元手法を採用しない、破壊・廃陣直後の遺構保存と遺跡の現況景観の維持を第一前提」としている(「名護屋城跡並びに陣跡」第3期保存整備事業計画[平成14年度])。エリア別の整備方針では、破却の景観をよく残している「山上地区」(本丸・二ノ丸・三ノ丸など山上の曲輪群)に対し、北側山裾にあたる「山里地区」は民家・道路がそのエリア内に含まれ、旧状が大きく改変されている部分も多いことから、「より積極的な整備を行い、城と(現在の)町につながりをもたせる整備を検討」するエリアとしての位置付けがなされている(『特別史跡「名護屋城跡並びに陣跡」保存整備計画」第4期計画 平成5年3月)。草庵茶室跡においては数寄空間が体験できるよう、平面遺構表示の他、南西斜面の路地等を含む整備が考えられる。

###### ■整備手法

草庵茶室跡周辺の整備にあたっては、名護屋城跡全体の整備基本方針を踏まえた上で、遺構の性格を表す地形復元や平面遺構表示、説明板の設置、他の曲輪等への通路など今後の活用につなげていくための積極的な整備が必要である。

###### ■課題

草庵茶室への往時の動線は、山里丸御殿(現在の広沢寺)からの通路のほか、水手通路から北東側の斜面をつづら折れに降りる路地の2つを確認している。第5期計画では

つづら折れの路地を整備し、水手通路に重なる現在も管理用道路に接続する計画を立てている。つづら折れ路地の整備には一部堀切状になるなど現況とは異なる地形の復元とともに、周囲の樹木管理を含む環境整備も必要となる。現状は樹木の繁茂により本丸を臨むことが出来ないが、当時の景観について検討した上で、茶室と一体化した山里の数寄空間を再現する必要がある一方、つづら折れの路地からは木製デッキ等を介して水手通路に上られるようにするなど見学者の利便性・安全性を踏まえて検討を行う必要がある。



草庵茶室跡発掘調査状況(全景)



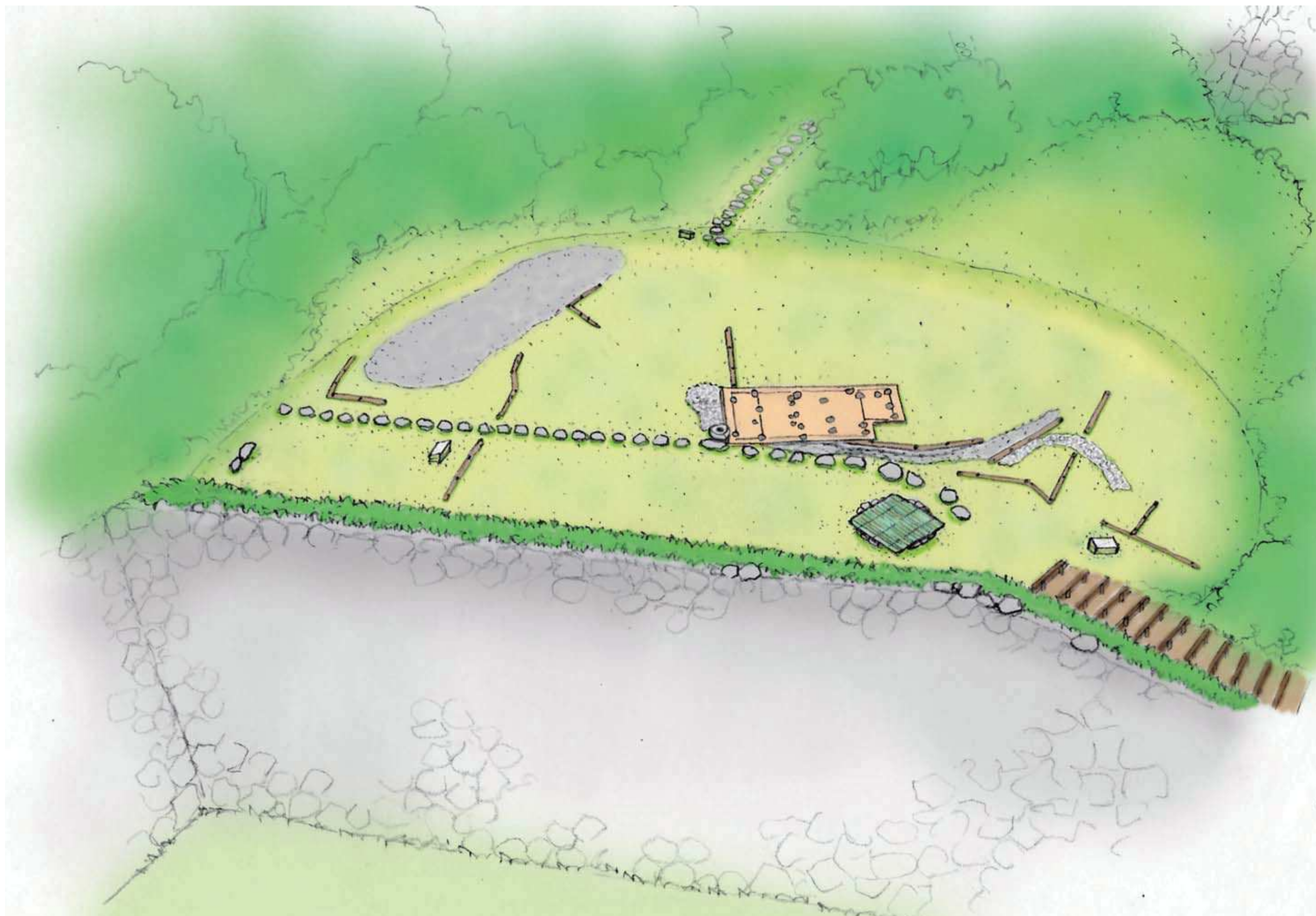
草庵茶室跡発掘調査状況(茶室部分)



草庵茶室復元想像図



草庵茶室跡整備状況



名護屋城跡上山里丸草庵茶室跡実施設計 修景整備イメージ図

令和5年度名護屋城跡保存整備事業に伴う上山里丸草庵茶室跡北側法面の環境整備工事実施設計業務委託

(1) 設計対象 名護屋城跡上山里丸草庵茶室跡北側法面

(2) 設計面積 97 m<sup>2</sup>

(3) 設計方針

上山里丸草庵茶室跡北側法面の石垣が積まれていない部分について、露出している栗石等が崩落しないように、盛土と植生によって地盤の安定化を図るための実施設計を行う。

また、令和4年度の環境整備工事で伐採し切株となった樹木について、一部表土を浮き上がらせるなど地盤に対して悪影響がみられるものについては、これの除根を行う。除根を行わないその他の切株についてはそのままの状態を維持する。

(4) 設計概要

【漉き取り】…樹木の根により浮き上がった土を漉き取る。

【除根】…土を浮き上がらせている切株を除根する。

【盛土】…石垣が積まれていない部分に土嚢を木口積みし、栗石等の崩落を防止する。

【植栽】…盛土の表面に張芝と植生マットを敷き、植栽することで盛土の安定化を図る。



平面遺構表示 (南から見る)



北側法面 (北から見る)



平面遺構表示 (西から見る)



北側法面 (東から見る)



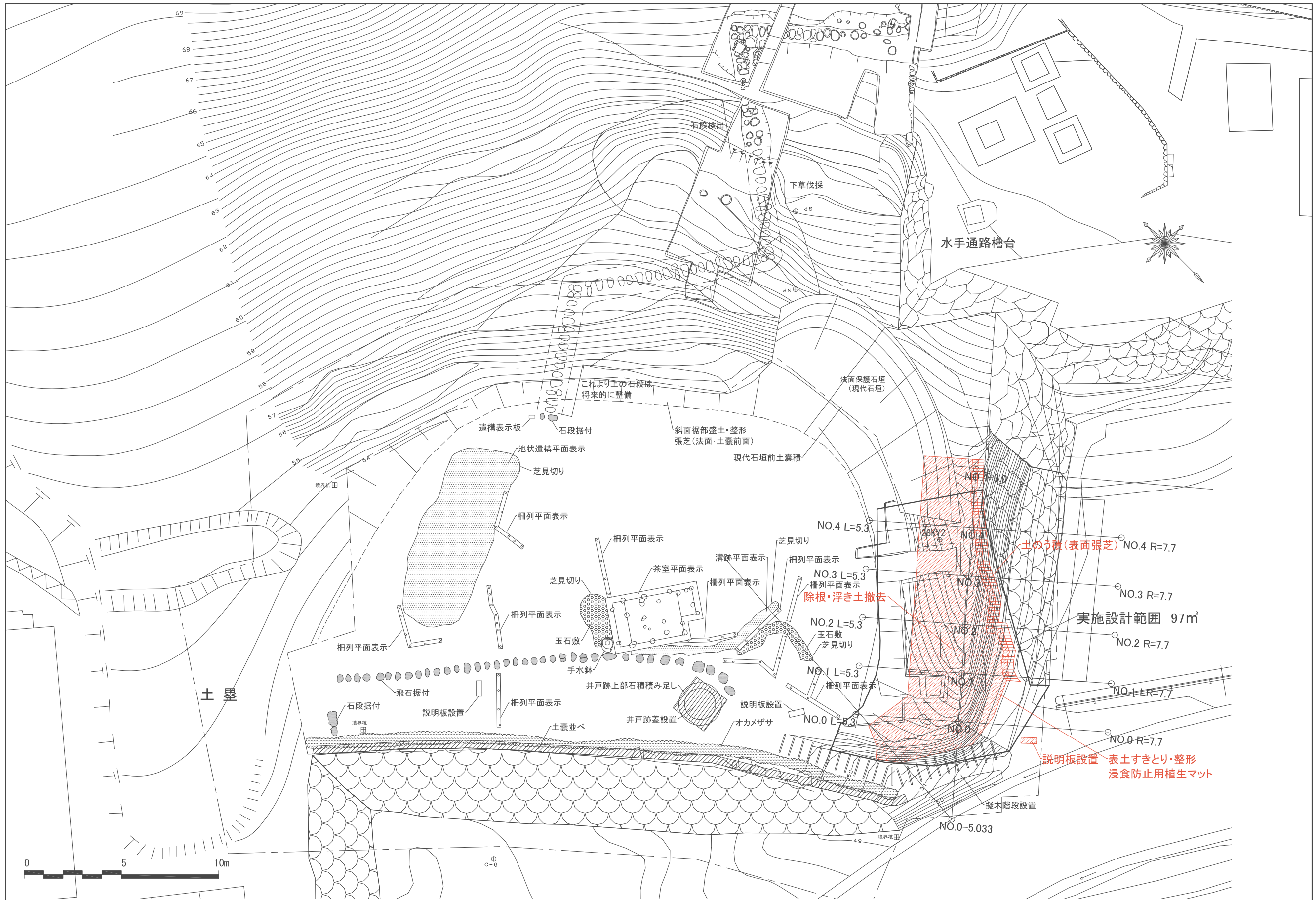
設計範囲の概要



平面遺構表示 (東から見る)



北側法面 (北西から見る)



Construction Name  
 名護屋城跡環境整備工事

Title  
 計画平面図

Scale  
 A2: 1/120  
 A3: 1/200

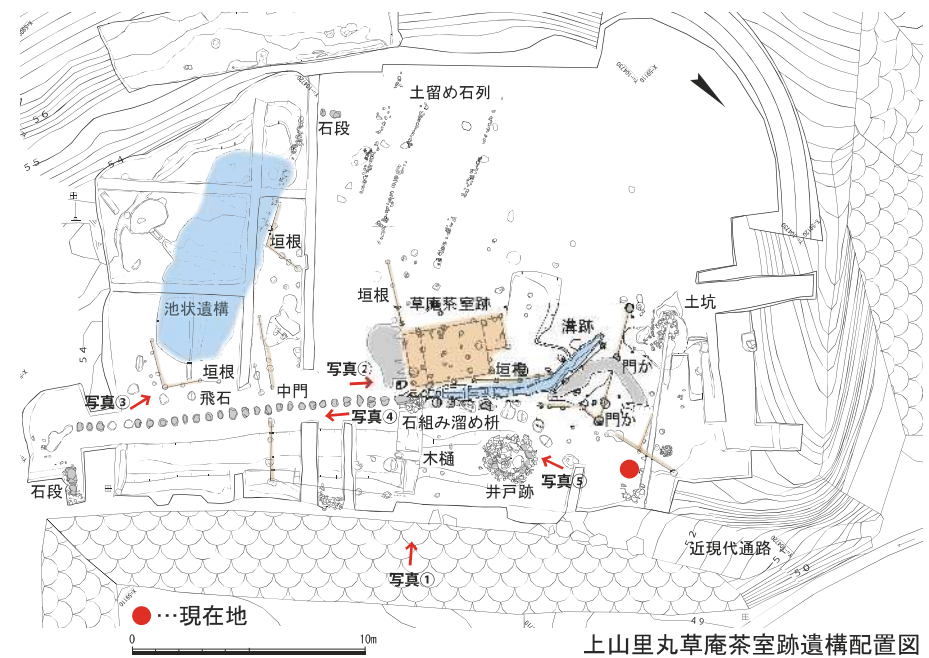
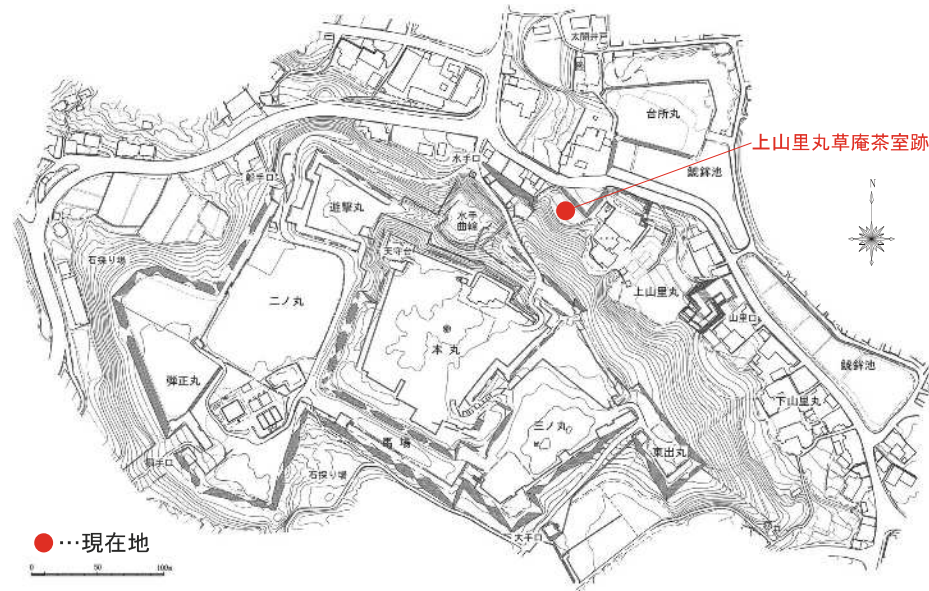
佐賀県立 名護屋城博物館  
 Saga Prefectural Nagaya Castle Museum

03

# 名護屋城跡

かみやまざとまるそうあんちゃしつあと

## 上山里丸草庵茶室跡



### ■草庵茶室跡の発掘調査

上山里丸北西部で発見された茶室跡の発掘調査は、平成9年度から10年度（1997～98）に実施されました。名護屋城での「茶の湯」文化が窺える重要な遺構です。

### ■上山里丸小曲輪

上山里丸小曲輪は山里丸居館部（現広沢寺）から北西側に張り出すように配置しています。北東面高さ約6m、北西面高さ5m弱で築かれています。南西面は斜面地で秀吉居館部との間に尾根が伸びます。



写真① 上山里丸草庵茶室跡発掘調査状況（北東から）

### ■草庵茶室跡と周囲の遺構

茶室跡は地面に穴を掘り柱を立てる掘立柱構造で、広さは4畳半程です。柱穴は小さく浅く、床や縁の並びも確認できました。周囲には井戸跡、石組み溜枡、木樋跡、溝など水関連遺構も発見されています。



写真② 上山里丸草庵茶室跡との遺構周囲（東から）



写真③ 石段、玉石、飛石、垣根跡、池状遺構（東から）



写真④ 飛石列と石段（北西から） 写真⑤ 井戸跡と飛石抜き取り痕（北西から）

### ■草庵茶室跡と周辺をつなぐ遺構①

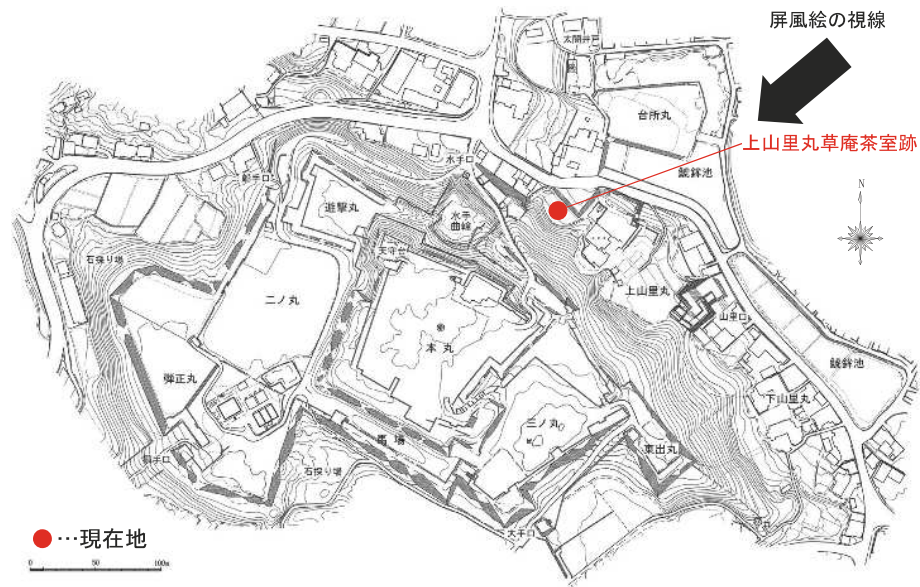
発掘調査では、南西斜面地足元の石段から茶室前まで敷かれる玉石敷や山里丸居館部が位置する南東方向から井戸跡まで直線的に延びる飛石を確認しました。

飛石列上には中門、脇には垣根を配置し、茶室へ至る路地空間を構成していました。また、山里丸居館部に向かう飛石列の先で石段も見つかっています。なお、曲輪北隅部の通路は、近現代に造られたものです。

# 名護屋城跡

かみやまざとまるそうあんちゃしつあと

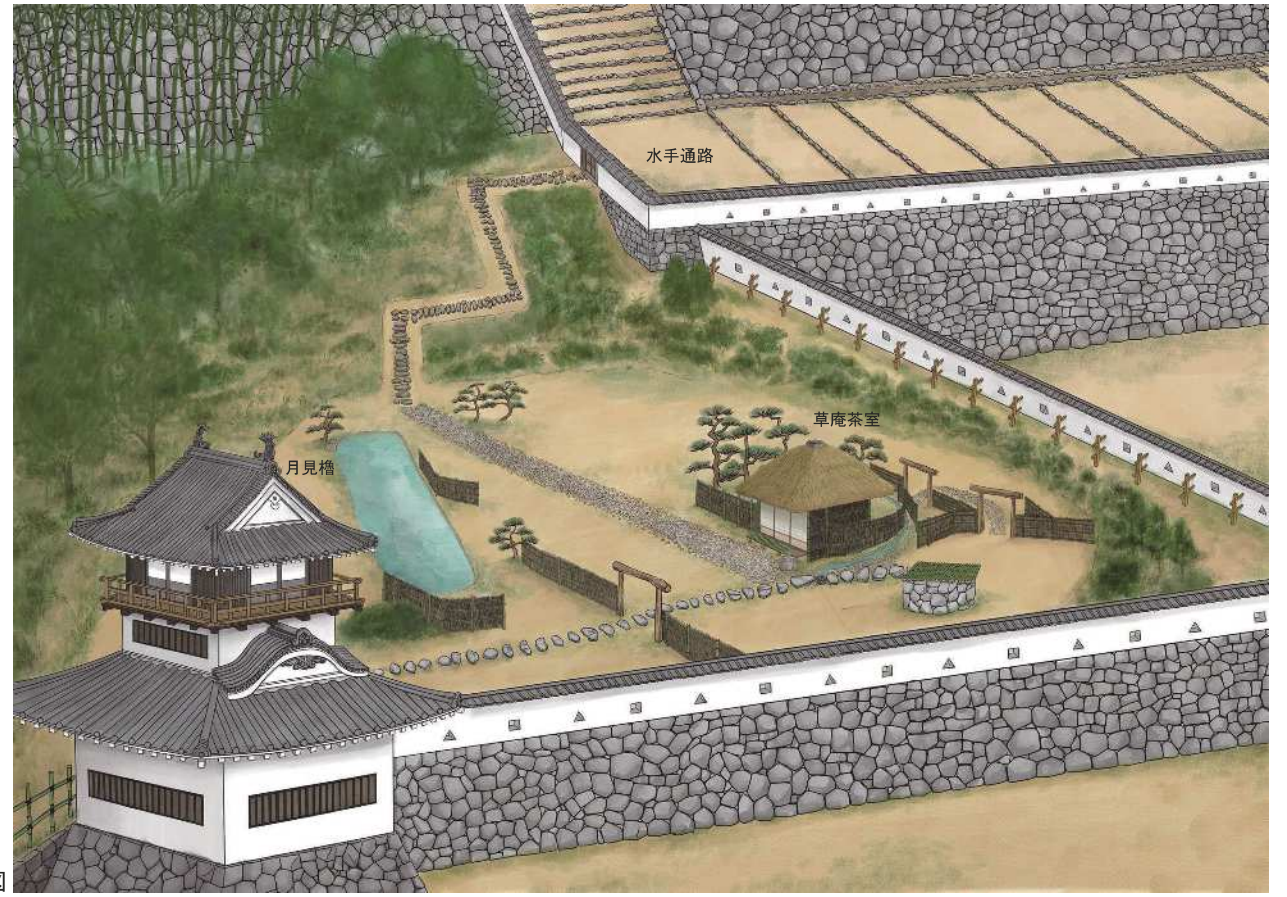
## 上山里丸草庵茶室跡



### ■山里丸と草庵茶室

山里丸は本丸の北東に設けられた鯨鉾池に面する曲輪で、山里口を挟み西側の一段高い上山里丸と東側の下山里丸からなります。『肥前名護屋城図屏風』には、御殿や能舞台が描かれ、秀吉の私的な空間と考えられています。上山里丸の北西部からは茶室跡が発掘され、博多の豪商 神谷宗湛が記した『宗湛日記』からは、竹や柴を使った4畳半の草庵茶室であり、「黄金の茶室」と異なる私的な茶室だったと想定されます。

上山里丸小曲輪復元想定鳥瞰図



### ■上山里丸草庵茶室跡の保存整備

発掘調査後には盛土による遺構の保護を図り、地形復元や遺構平面表示、説明板設置等の修景整備を実施しました。



上山里丸草庵茶室跡整備実施図

### ■草庵茶室と月見櫓

『肥前名護屋城図屏風』には望楼型の月見櫓が描かれています。『宗湛日記』には茶会の際に月見櫓を待合にしたとみられる記述があります。月見櫓と茶室跡の間からは飛石列と石段を発掘しており、月見櫓と草庵茶室は路地でつながれていたと考えられます。



『肥前名護屋城図屏風』  
(名護屋城上山里丸月見櫓部分)  
佐賀県立名護屋城博物館蔵



上山里丸草庵茶室復元想定図 内観

『宗湛日記』より一部抜粋  
十一月十七日朝 ナコヤニテ  
太閣様二御会  
山里ノ御座敷ヒラキナリ  
(中略)  
御座敷四帖半  
柱モ其外ミナ竹ナリ  
四尺五寸ノ床  
ソノ下二道籠(戸棚)アリ  
二枚障子  
大ヘラノ方(建物の長い方)  
ミナマドニシテ  
腰二大竹ヲ横ニ一ツワタシテ候  
外ハ柴垣也、  
サイエン(細縁)アリ  
手水石縁ヨリツカイ候ヤウニ  
上にヘキメ板置テ  
イロリ真フチ

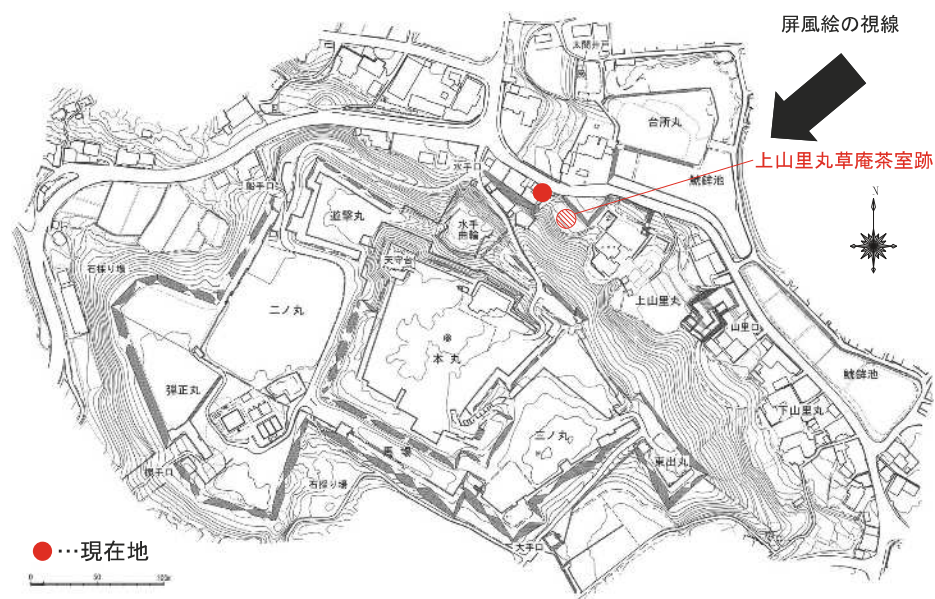


上山里丸草庵茶室復元想定図 外観

# 名護屋城跡

## かみやまざとまるそうあんちゃしつあと

### 上山里丸草庵茶室跡



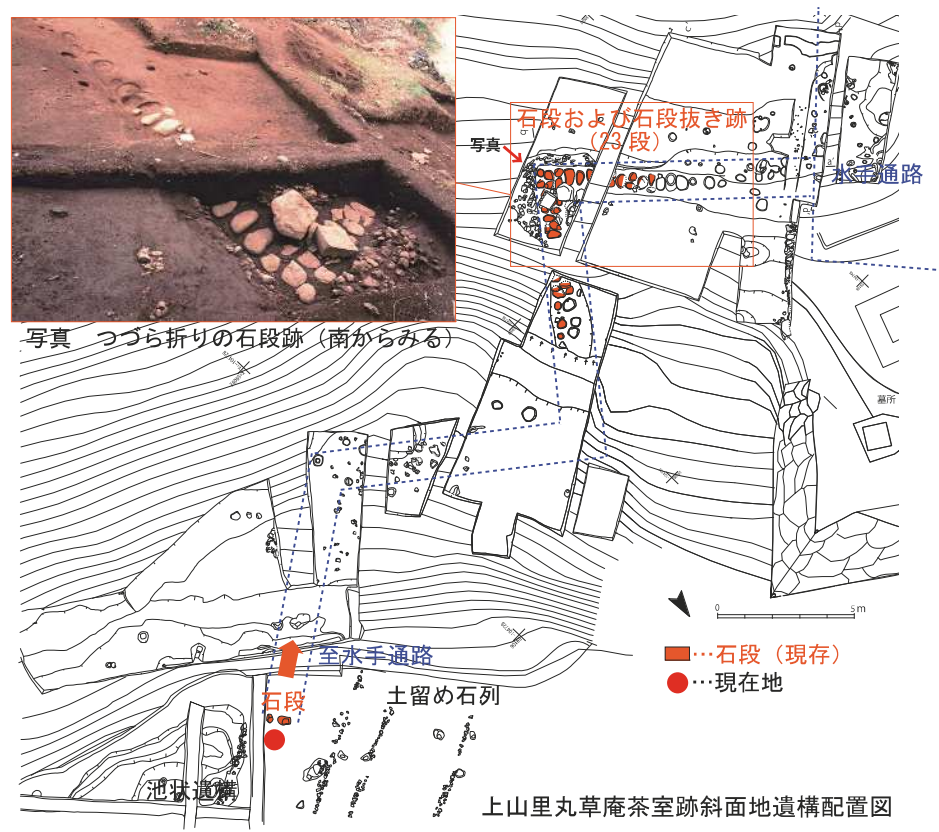
肥前名護屋城図屏風（名護屋城上山里丸部分）佐賀県立名護屋城博物館蔵

上山里丸（現在の広沢寺周辺）は、豊臣秀吉が居住した場所です。『肥前名護屋城図屏風』には、御殿、月見櫓、草葺の櫓門と草庵茶室らしき建物が描かれ、豪壮で趣のある建物が並んでいたことがわかります。

ここでは発掘調査から明らかになった、茶室跡、井戸、飛石、石段、池状遺構、柵列等について、盛土で保護した上に新たな石材などを用いて遺構の平面表示をおこない、当時の茶庭空間を表現しています。

近現代通路入口設置説明板

# 水手通路につながる路地



肥前名護屋城図屏風（上山里丸草庵茶室周辺部分）佐賀県立名護屋城博物館蔵

■草庵茶室跡と周辺をつなぐ遺構②

上山里丸と水手通路は路地につながり、上山里丸側の路地の始まりがこの石段です。石段は斜面にも配置され、つづら折りとなり水手通路の方へ延びていました。『肥前名護屋城図屏風』には黒塗りの小門（潜り戸）の描写があり、水手通路との境界には小門があったと考えられます。

南西斜面石段設置説明板

# 令和4・5年度発掘調査箇所(水手通路)





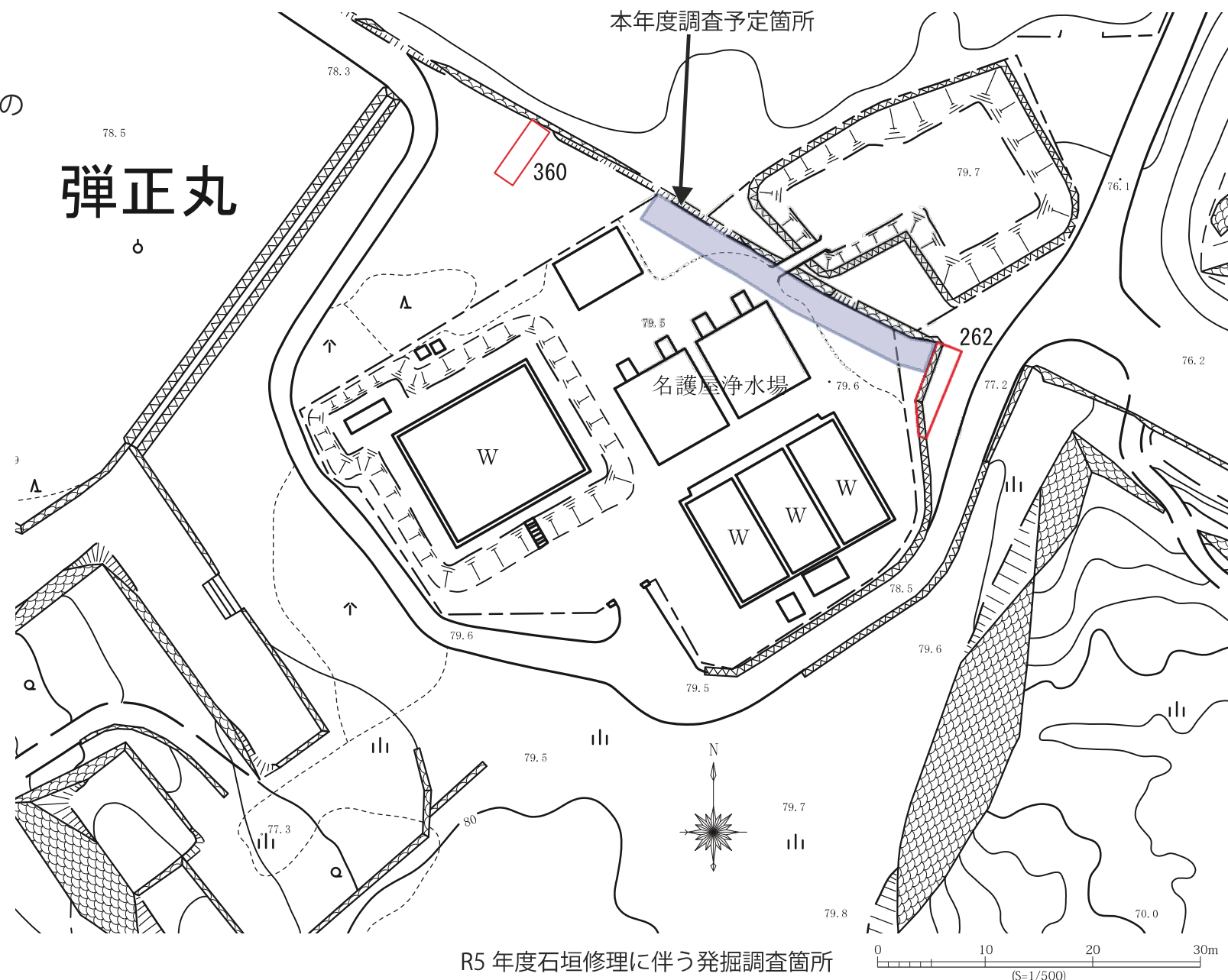
## 弾正丸(石垣修理)

### 【調査目的】

- ・石垣上面の堀などの遺構の確認
- ・裏栗石の状況確認 (調査区 360 で裏栗石は築石の控え最奥から 2mの範囲に亘り確認されている)
- ・石垣の変形・破損原因の追究
- ・破却状況の確認



調査区 360 裏栗石部分拡大 (東から)



R5 年度石垣修理に伴う発掘調査箇所



石垣修理箇所 弾正丸 (238 面) 石垣 (北東から)



1区 全景（上：南西から、下：北東から）

2区 全景（上：南西から、下：北東から）

3区 全景（上：南西から、下：北東から）



2区 サブトレンチ（北西から）



3区 サブトレンチ（北西から）





4区 全景 (南西から)



4区 全景 (南西から)



4区 全景 (南西から)



4区 西端 (東から)



4区 全景 (南東から)



4区 南側サブトレンチ (上から)



4区 サブトレンチ裏栗石検出状況 (南西から)



4区 サブトレンチ (西から)



4区 サブトレンチ裏栗石検出状況 (上から)



4区 南側サブトレンチ (上から)



4区 サブトレンチ (南東から)



4区 サブトレンチ (南東から)

# 名護屋城跡弾正丸石垣修理計画



1区 全景 (北東から)



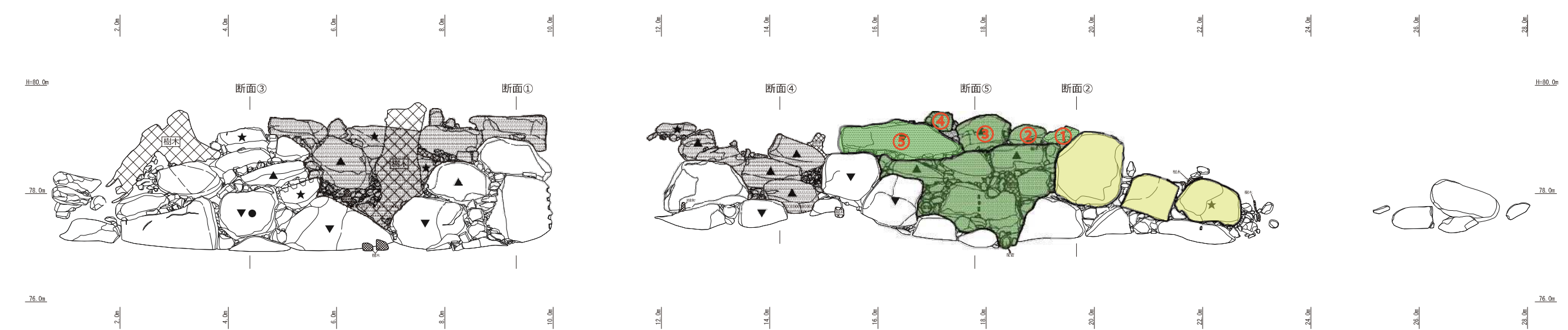
4区 全景 1 (北東から)



4区 全景 2 (北東から)

## 発掘調査での解体案

- ①②③と黄色い範囲の築石に関しては、後世の掘削により裏栗石がないため解体可能と考える。
- ④⑤の築石に関しては、現代の硬化面に裏栗石が混ざるように堆積していることや石垣の表面観察でも間詰石等後世に人の手が加えられているため解体可能と考えられる。



2区 全景 (北東から)



3区 全景 (北東から)



4区 全景 3 (北東から)

弾正丸石垣 (238面石垣) の本来の勾配 (約 76°) を基準に築石のズレを記載

- 凡例
- ▲ : ズレ (石尻下がり)
  - ▼ : ズレ (石尻上がり)
  - ★ : ズレ (その他)
  - : 石の割れ・つぶれ
  - 解体修理箇所 (R4年度解体案提示範囲)
  - 発掘調査後の解体範囲案
  - 新解体範囲案